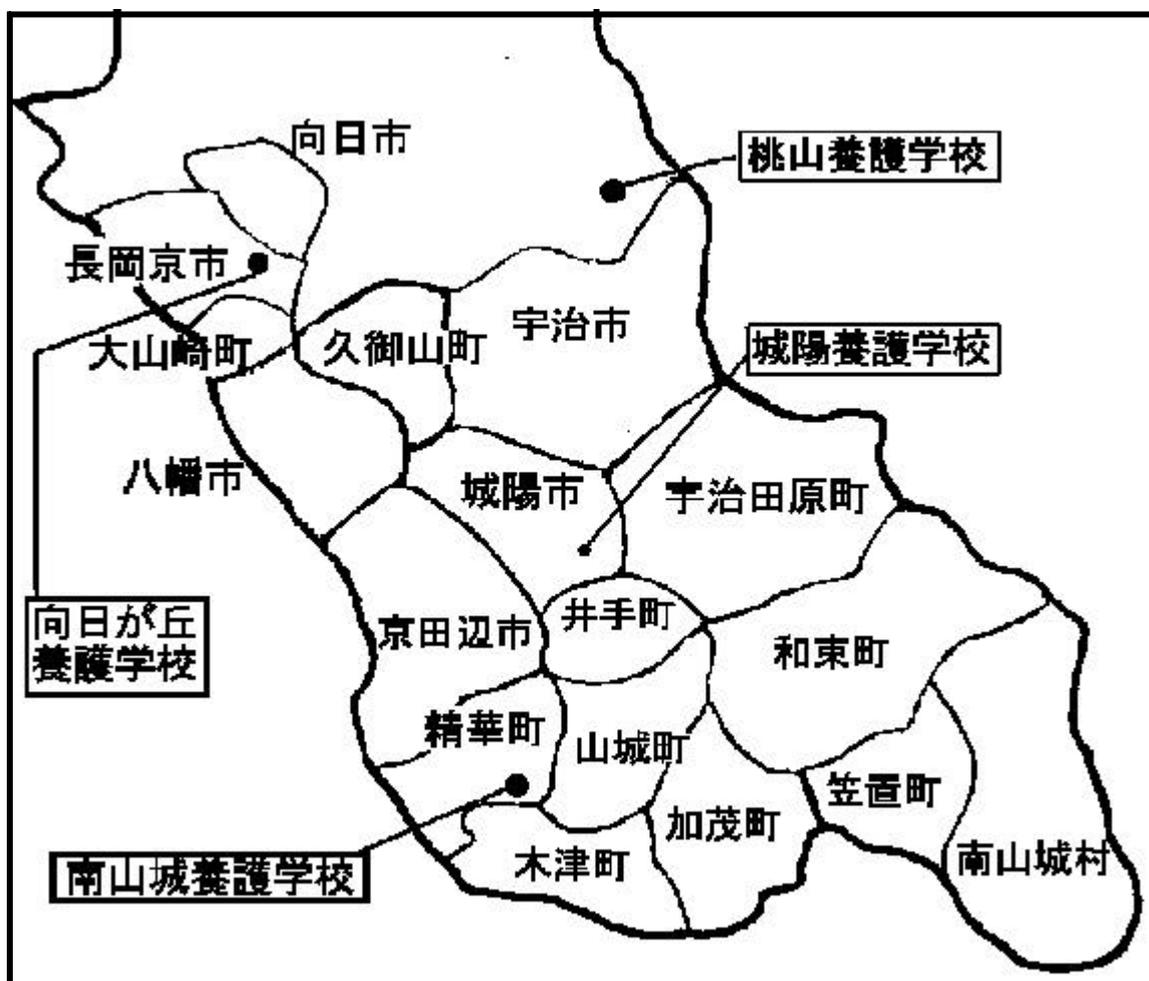


山城地域における
府立養護学校の再編整備について

平成16年8月24日
京都府教育委員会

山城地域の府立養護学校設置状況



学校名	所在地	設置年度	設置学部	主たる障害種別
桃山養護	京都市	昭49	小・中・高	主として知的障害
向日が丘養護	長岡京市	昭42	小・中・高	主として肢体不自由・知的障害
城陽養護	城陽市	昭61	小・中・高	主として病弱・知的障害・肢体不自由
南山城養護	精華町	昭56	小・中・高	主として肢体不自由・知的障害

府立養護学校の再編整備計画（平成14年3月策定） - 概要

1 府立養護学校の再編整備計画策定の経過

・「府立学校の在り方懇話会」の設置（平成12年5月）

「府立学校の在り方懇話会」中間まとめ（平成12年12月）

・養護学校に在籍する児童生徒と地域社会の結びつきを強めていく取組を進めていくために、現在の通学区域が縮小されるよう養護学校の配置を見直し、再編整備を図る必要がある。

「府立学校の在り方懇話会」まとめ（平成14年1月）

・障害の重度・重複化、多様に対応してよりきめ細かな教育を進めるため、教員の専門性を高める観点に立って、地域の特性を生かし、より地域社会に開かれたものとされるよう強く期待する。

・「府立養護学校の再編整備計画」の策定（平成14年3月）

2 再編整備の基本的観点

ノーマライゼーションを一層推進するため、次の2つの観点から再編整備を進める。

---【地域社会に密着した養護学校の教育機能の充実】---

- ・乳幼児の教育相談も含めた地域社会からの相談ニーズの高まりへの対応
- ・地域社会での総合的サポート体制整備に向け、期待される公的教育機関としての役割

---【児童生徒の障害の状態に応じた専門的教育機能の充実】---

- ・障害の重度・重複化、多様化への対応の必要性

3 府立養護学校の再編整備の内容

(1) 中核的機能を有する養護学校の配置

地域社会に密着した教育機能の充実 < 地域の障害児教育の相談センター的な役割
児童生徒の地域社会とのつながりの強化

< 北部地域 >

中丹養護学校の通学区域は現行どおりとする。与謝の海養護学校の通学区域については縮小し、舞鶴市を分離する。舞鶴市域を通学区域とする養護学校を新設する。

< 中部地域 >

丹波養護学校の通学区域は、現行どおりとする。

< 南部地域 >

向日が丘養護学校の通学区域を縮小して、向日市、長岡京市及び大山崎町とする。

南山城養護学校の通学区域を縮小して、京田辺市、綴喜郡及び相楽郡とする。
宇治市、八幡市、城陽市及び久御山町については、新たに2つの通学区域に再編するが、再編に当たっては、今後関係市町村と調整する必要がある。

(2) 障害の重度・重複化、多様化への対応<障害の状態等に応じたきめ細かな教育の推進の必要性>

(3) 養護学校における教育指導の充実<学校、家庭、地域社会と連携した指導の充実>

南部地域の養護学校（通学制）の現状

		山城教育局管内						
		乙訓教育局管内	桃山学園	宇治市	八幡市	城陽市	久御山町	京田辺市他
現 状	知的	<127人>	<151人>			<197人>		
	肢体	向日が丘	桃山 (30) (87) (34)	<8人> 南山城 (8)		南山城 (64) (15) (118)		
再 編 後	知的	<127人>	<267人>				<118人>	
	肢体	向日が丘	桃山学園等 (30) 宇治市 (112) 八幡市 (46) 城陽市 (64) 久御山町 (15)			2つの通学区域に再編		南山城

- 1 児童生徒数は、平成16年5月1日現在。
- 2 城陽養護学校（通学高等部）には、宇治市18人、八幡市3人、城陽市6人、久御山町1人が通学している。